

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
船橋情報ビジネス専門学校		昭和56年9月22日		鳥居高之		〒 273-0005 (住所) 千葉県船橋市本町7-12-17 (電話) 047-425-1051		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人三橋学園		昭和41年9月21日		鳥居高之		〒 273-0005 (住所) 千葉県船橋市本町7-12-17 (電話) 047-425-1051		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		ITエンジニア科		平成19(2007)年度		平成26(2014)年度	
学科の目的		情報システム構築に必要な技術と、ネットワーク、情報インフラ構築に必要な技術を合わせて習得、社会人として必要な能力の養成、企業に役立つ人材の育成を目的とします。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		3年制の学科である。2年生学科よりも就職活動開始までの準備期間は2倍あり、より高い地点まで自分を成長させてから就職活動を行うことができます。 R5在籍学生資格実績 情報処理技術者試験レベル4:情報処理安全確保支援士試験1名、レベル3:応用情報技術者試験8名、レベル2:基本情報技術者試験154名、情報セキュリティマネジメント試験53名、レベル1:ITパスポート試験166名。シスコ技術者認定試験合格実績:CCNA67名。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		90 単位		96 単位	76 単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
210 人	276 人		0 人		0 %	1 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		40 人					
	■就職希望者数(D)		40 人					
	■就職者数(E)		39 人					
	■地元就職者数(F)		2 人					
	■就職率(E/D)		98 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		5 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		98 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) IT情報サービス業、情報通信業、一般企業の情報処理部門						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成28年3月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/disclosure/hyouka_dai3.pdf							
当該学科のホームページURL	https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_g.html							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				0 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				90 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				0 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				12 単位			
うち必修単位数				16 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				0 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				12 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				4 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				4 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				8 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界の動向や人材ニーズを、IT企業、システム利用者、地域IT業界団体から成る教育課程編成委員会から直接情報を得て把握する。あわせて卒業生の就職先企業からの要望のアンケートも参考とする。また学校の自己評価および学校関係者評価、ならびに全生徒に対し学期末ごとに実施される授業理解度調査からも教育課程への課題を得る。これらを総合してより実践的に情報システム構築を行うシステムエンジニア、プログラマの育成をめざす教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は学校長に任命され、年に2回以上招集される。年度末に行う委員会において教務部長から次年度の教育課程の原案を受取り委員会で審議し結果を教務部長に報告する。教務部長はこの審議結果を実務的かつ専門的な観点からの助言として、それを参考に教育課程案を作成して校長決済を受ける。この教育課程案を理事会審議にかけ承認を得て次年度の正式な教育課程とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年1月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
鳥居 高之	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
杉山 剛	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
森田 秀明	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
藤崎 忠夫	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (公益情報システム株式会社 代表取締役)	R7.1.1～R7.9.30(1年)	①
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	①
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

令和5年度第1回 令和5年10月31日 17:00～18:00 令和6年度第1回 令和6年10月31日 17:00～18:00

令和5年度第2回 令和6年2月28日 17:00～18:00 令和6年度第2回 令和7年2月20日 17:00～18:00 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

以前より委員会の助言からPython、Javaなどの言語、AWS関連をカリキュラム化してきた。委員会では、昨年から「AI」が避けられない社会情勢や、ChatGPTの実業務での利用、学会でのAIを使った研究発表が行われ産学連携できる企業を募っている状況など。今や実用レベルで取組みが始まっていることが各委員から報告された。学校でも「AI」を扱う時期の到来を告げるなかで、カリキュラムとして「情報倫理と生成AI活用」の授業を開始した。AWSにおいてはAWSクラウドプラクティショナーを取得するよう勧めていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携する演習においては連携先企業等の担当者を定め、実習・演習の計画時、実施中、評価のそれぞれのフェーズにおいて科目担当の本校所属教員への助言等の連携を密に行う。評価においては連携の結果を生徒にフィードバックする。また、実習・演習を実践的なものにするために必要に応じて適宜、実習・演習の場にも企業等の担当者が参加する。尚、実習の・演習の企業と連携した計画は職員会議にて報告し承認を受ける。実施時の連携状況・連携結果についても適宜職員会議にて報告し指示を受ける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ソフト開発、ネットワーク、セキュリティの各分野において、それぞれ、シスコシステムズ合同会社、Linux Professional institute(LPI)日本支社から教材提供等技術支援を受けている。それに加え株式会社SHIFTから教材の提供、講師派遣の支援を受けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ソフトウェアテスト基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Excel:会社でよく使われる機能を中心に、基本機能を確認し、応用機能を学ぶ。 Access:基本を学ぶ。	株式会社SHIFT
アジャイル開発基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Word:資料を体裁よく作成する機能を学ぶ。 Excel VBA:マクロ機能の基本を学ぶ。	株式会社SHIFT
Linuxサーバー構築 I	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	ゲームエンジンを利用し ゲームを題材としてアプリケーション開発とメディア知識について学ぶ。	Linux Professional institute(LPI)
卒業研究	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	テーブル設計から具体的なデータベース化を学習していくための授業です。教科書を用いて、学習を補助します。一部、効率的なデータベース運用も出ますので、しっかりと学習してください。	株式会社第一情報システムズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定に従い教員は年度研修計画通り知識技術教育・授業及び生徒に対する指導力の研修を受ける。研修計画は学科長と教務部長が教育課程編成委員会等から得た業界動向と、各教員の能力、担当業務、昇格等を基に計画する。知識技術教育はWebデザイン、情報システム構築に関し、その分野の知見のある企業等と連携する。指導力の研修も十分な知見を持つ企業等と連携する。研修の実施は企業等の主催又は講師の派遣を受ける。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	バーチャルプロダクションDays＋2023(Day01)	連携企業等:	日経BP
期間:	2023/8/3	対象:	プログラミング担当教員
内容	すそ野広がるバーチャルプロダクションの利活用を学ぶ。		
研修名:	「セキュリティ人材育成コンソーシアム」教員向けセミナー	連携企業等:	セキュリティ人材育成コンソーシアム事務局
期間:	2023/8/23	対象:	セキュリティ担当教員
内容	シスメックのサイバーセキュリティの取り組みについて。セキュリティ業界の仕事について。		
研修名:	専門学校教員向けChatGPT業務効率化セミナー	連携企業等:	デジタルハリウッドアカデミー
期間:	2023/12/20	対象:	全教員
内容	1.生成AIのインパクト 2.プロンプトエンジニアリングを学ぶ重要性とは 3.魅力的な授業構成を”爆速”で作ろう		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	就職年次向けの面接練習	連携企業等:	学内研修
期間:	2024/2/7	対象:	全教員
内容	・最近の就職動向について。・面接練習のデモと事前準備物。・実際にチームで分かれて実演。・意見交換会		
研修名:	2023年度ハラスメント研修	連携企業等:	株式会社エデュースキャリアデザイン
期間:	2023/8/8	対象:	全教職員
内容	学校現場で起こりうるハラスメントの留意点を学び、事例を考察する		
研修名:	退学を減らすためには	連携企業等:	学内研修
期間:	2023/11/24	対象:	全教員
内容	退学を減らすため、「FJBの価値」「SHR運営」「学生や親御さんとの電話」「覚悟」の観点から考察する。		

(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ネットワークの基礎に関する講義	連携企業等: 学校内
期間:	2024/8/23	対象: ネットワーク担当教員
内容	＜ネットワークの基礎＞ 1.OSIモデル 2.ローカル・エリア・ネットワーク 3.MACアドレスとIPアドレス 4.イーサネットLANのセグメント化 5.DNS 6.VLANとVLAN間ルーティング	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	新入職員基礎講座	連携企業等: 株式会社エデュース
期間:	2024/4/3	対象: 新入教員
内容	1.学校の意義2.学校とは3.学校法人とは4.所轄庁と認可5.学校の組織と業務6.教育関連法規の整理など	
研修名:	学校コンプライアンス対策講座	連携企業等: 株式会社エデュースキャリアデザイン
期間:	2024/8/6	対象: 全教職員
内容	1.ハラスメントの類型 2.近年の学校でのハラスメント事例 3.モデルケースによる考察 5.ハラスメントの初期対応	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
本校の学校関係者評価委員は、評価の透明性が保てるよう全員本校の教職員以外で無償化にて参加とし、特に企業等のメンバーは職業実践的専門的評価に資する就職先業界から選出する。委員会は学校自己評価、学校の現状に関する関連資料等を踏まえて、学校自己評価の内容、今後の改善方策、実際の取組、各々が適切であるか審議し助言を行う。この助言は、学校運営、教育活動の改善と自己評価の改善方策の検討において活用する。

「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
全体の評価を通じて特に不適とする点は委員会では指摘されなかった。教育活動及び学生支援、学修の成果について確認がなされた。R5年度は単位制に切り替え、授業が柔軟に組み替えることができる点。従来の「必修」「必修選択」に加えて「任意選択」科目を導入した点。更に学科横断の授業を採用しようと考えている点を説明した。各学科の少数ニーズを纏めてひとつの教科を成立させる試みについて評価された。委員から課題とされた企業連携授業の取組み方では、通信企業様主催でDX教育の授業を行うことができた。実務者経験者が講師を務める講義は学生にとって大きな刺激で動機付けとなった報告を行う。少子化による競争激化、留学生の受け入れ、グローバル化については状況を説明し、委員から助言をいただく。今後の課題として対応策を検討していくこととした。

令和7年1月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
藤崎 忠夫	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (公益情報システム株式会社 代表取締役)	R7.1.1～R7.9.30(4年)	業界団体 等委員
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	経済団体 委員
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: URL:https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/disclosure/hyouka_kankeisha.pdf
公表時期: 令和6年11月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の基本情報、教育活動や学校運営についてホームページにて情報公開し広く周知する。情報公開に当たり情報の信頼度を保つため、内容変更が発生する都度、正確性、利便性等の確認の上、広報部長の承認を得る。具体的な内容は、学校の指導方針・人材養成目的、高等学校等の進路指導のための情報、職業実践専門的な実習・就職指導等の企業連携に関する情報、教育活動の成果・実績、教育プログラム等とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要と沿革、年間スケジュール
(2)各学科等の教育	入学案内、学科案内、資格情報、就職情報、主な就職先一覧
(3)教職員	教職員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業向け研修講座、IT設備、就職情報
(5)様々な教育活動・教育環境	年間スケジュール、活動紹介
(6)学生の生活支援	キャンパスライフ、学費支援
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、学費支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	学校評価、学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/index.html>

公表時期: 令和6年11月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ネットワーク とセキュリ ティ	(1) 経済産業省情報処理技術者試験の合格を見据えた必要かつ十分な「ネットワーク」「セキュリティ」の知識を身に付ける。 (2) 基本情報処理技術者試験に向けて、必須分野である情報セキュリティに関する解法ポイントを押さえる	1 前	72	4	○			○		○		
2	○			情報セキュリ ティ	(1) 検定試験だけでなく、実務社会において必要かつ十分な情報セキュリティの知識を身に付ける。 (2) 基本情報処理技術者試験に向けて、必須分野である情報セキュリティに関する解法ポイントを押さえる。	1 後	72	4	○			○		○		
3	○			ネットワーク 技術	シスコネットワークアカデミーのカリキュラムをベースとして、ネットワーク技術者もしくはネットワークに強いシステムエンジニアとして必要とされる知識と技能を修得する。	1 後	36	2	○			○		○		
4	○			アルゴリズム とデータ構造 Ⅰ	論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。 Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。	1 前	72	4	○	△		○		○		
5	○			アルゴリズム とデータ構造 Ⅱ	論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。 Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。	1 後	36	2	○	△		○		○		
6	○			ハードウェア とソフトウェ ア	経済産業省情報処理技術者試験の合格を見据えた必要かつ十分な「ハードウェアとソフトウェア」の知識を身に付ける。	1 前	36	2	○			○		○		
7	○			データベース	データベースに関する基礎知識の学習および基礎知識の応用方法を学習する。	1 前	36	2	○			○		○		
8	○			ストラテジと マネジメント	情報処理技術者試験の出題分野である「マネジメント、ストラテジ」を通して、IT技術を活用する者に必要な基礎知識を習得していく。	1 前	54	3	○			○		○		
9	○			システム設計	情報処理技術者試験の出題分野である「ソフトウェア設計」を通して、IT技術を活用する者に必要な基礎知識を習得していく。	1 前	18	1	○			○		○		
10	○			国家試験対策	経済産業省情報処理技術者試験の取得に向けた対策を行う。（過去問演習→補足解説→見直し）	1 後	126	7	○			○		○		
11	○			検定対策Ⅰ	各種検定試験に対する問題演習及び見直しを行う。	1 前	72	4	○	△		○		○		
12	○			検定対策Ⅱ	各種検定試験に対する問題演習及び見直しを行う。	1 後	36	2	○	△		○		○		
13	○			HTML演習	HTML、Webについての基本的な知識を習得する。	1 後	36	2	△	○	△	○			○	
14	○			Java言語演習 Ⅰ	Java言語のみならず、プログラミング言語一般で必要とされる制御文の役割と使い方を学ぶ。実際に手を動かし、プログラミング言語がどういうものかを経験として身に付ける。	1 前	72	4	△	○	△	○		○		
15	○			Java言語演習 Ⅱ	Java言語のみならず、プログラミング言語一般で必要とされる制御文の役割と使い方を学ぶ。Java言語の重要概念である「オブジェクト指向」の基礎を身に付ける。	1 後	72	4	△	○	△	○		○		

(工業専門課程 ITエンジニア科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			Office演習Ⅰ	表計算ソフトExcelを基礎から学び、資格の取得を目指す。	1前	36	2	○	△	△	○			○	
17	○			Office演習Ⅱ	表計算ソフトExcelを基礎から学び、資格の取得を目指す。	1後	36	2	○	△	△	○			○	
18	○			シスコネットワーク演習	シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者（もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア）として必要とされる知識と技能を修得する。	2前	##	6	△	○	△	○		○		
19	○			システム開発演習	システムエンジニア・プログラマの仕事に関する実務的な演習として、グループごとにシステム（スマホアプリ）の開発を行うことにより、システムの開発工程の実践と成果物のプレゼンテーション方法を学ぶ。	2後	##	6	△	○	△	○		○		
20	○			ネットワーク構築演習	Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。	2前	36	2	△	○	△	○		○		
21	○			Linux サーバ構築演習	CentOSを用いてOSの役割やLinuxについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。Linuxを通じて、世の中のサーバの利用目的を知り、サーバがどう立てられ、準備されるのかを学ぶ。	2後	36	2	△	○	△	○		○		○
22	○			オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ	1年次より学習しているJavaを用い、オブジェクト指向を利用したプログラミングについて演習を行う。	2前	36	2	△	○		○			○	
23	○			オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ	Javaを活用し、オブジェクト指向プログラミングについて演習を行う。	2後	36	2	△	○		○			○	
24	○			Web 技術 演習Ⅰ	HTMLとCSSの基礎知識と、テキストエディタによるコーディング作業を学習する。	2前	36	2	△	○		○		○		
25	○			Web 技術 演習Ⅱ	JavaScriptを通じて、プログラムの基礎をしっかりと学習するための授業です。基礎のみならず、具体的なWebサイトでの活用例も参照しつつ、JavaScriptの基本的な使いどころを理解していく内容となっています。	2後	72	4	△	○	△	○		○		
26	○			スマホアプリ作成演習	スマホアプリ作成に必要な基礎知識と関連技術を学ぶ。	2前	72	4	△	○		○		○		
27	○			検定対策応用Ⅰ	各自目標を設定し、その目標に向けて学習を進める。	2前	72	4	○			○		○		
28	○			検定対策応用Ⅱ	各自目標を設定し、その目標に向けて学習を進める。	2後	72	4	○			○		○		
29	○			ソフトウェアテスト基礎	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。	2後	36	2	○			○		○		○
30	○			データベース構築演習	データベースを学習し、システムのバックグラウンドで動く、「データの管理」について理解し、活用するための授業です。	2前	36	2	△	○		○		○		

(工業専門課程 ITエンジニア科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
31	○			Office演習応用Ⅰ	Excel：会社でよく使われる機能を中心に、基本機能を確認し、応用機能を学ぶ。 Access：基本を学ぶ。	2 前	36	2	○	△		○			○	
32	○			Office演習応用Ⅱ	Word：資料を体裁よく作成する機能を学ぶ。 Excel VBA：マクロ機能の基本を学ぶ。	2 後	36	2	○	△		○			○	
33	○			ゲームエンジン演習	ゲームエンジンを利用し ゲームを題材としてアプリケーション開発とメディア知識について学ぶ。	3 前	108	6	△	○	△	○		○		
34	○			卒業研究	数人からなるチーム単位での活動を基本とした 何らかのシステム開発演習（テーマは自由に決める）。	3 後	180	10	△	○	△	○		○		○
35	○			アジャイル開発基礎	スクラムのフレームワークに関する基礎知識、およびスクラムマスターとして動くための基本スキルを身に付ける。 また、スクラムへの理解だけではなく品質保証会社ならではのアジャイル開発の中での品質保証の方法論についても学ぶことができる。	3 前	36	2	○			○		○		○
36	○			データベース設計	テーブル設計から具体的なデータベース化を学習していくための授業です。教科書を用いて、学習を補助します。一部、効率的なデータベース運用も出しますので、しっかりと学習してください。	3 前	36	2	○	△		○		○		
37	○			Webアプリ開発演習Ⅰ	Webコンテンツ及びアプリケーションの開発演習。	3 前	36	2	△	○	△	○		○		
38	○			Webアプリ開発演習Ⅱ	Webコンテンツ及びアプリケーションの開発演習。	3 後	36	2	△	○	△	○		○		
39	○			プレゼンテーションⅠ	PowerPointを使用したプレゼンテーション資料の作成方法を学び、資料作成と発表の演習を行う。	3 前	36	2	○	△		○		○		
40	○			プレゼンテーションⅡ	卒業研究と連動し、企画書作成、広報ツール作成、プレゼンテーション等を行う。	3 後	36	2	○	△	△	○		○		
41		○		検定対策発展	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	3 前	36	2	○	△		○		○		
42		○		情報倫理と生成AI活用	生成AIを活用するにあたり必要となる情報倫理を学んだうえで、生成AIの活用方法を知ること社会人として利用できるシーンとそうでないシーンを明確にし、会社に必要な人材となることを目指す。	3 後	36	2	○			○		○		
43		○		AWS対策講座Ⅰ	AWSの資格取得に向け、クラウドコンピューティングを学ぶ。	3 前	36	2	○			○		○		
44		○		AWS対策講座Ⅱ	AWSの資格取得に向け、クラウドコンピューティングを学ぶ。	3 後	36	2	○			○		○		
45	○			新技術動向	新旧問わず現在利用されているさまざまなIT関連技術とニューストピックの紹介・解説を行う。1回完結での解説の他、3回程度での演習も合わせて行う。その時期ごとに特に話題になっているトピックに関する紹介・解説を随時行う。	3 後	36	2	○			○		○		

(工業専門課程 ITエンジニア科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
46	○			情報特論	卒業後、社会人として直面する種々の問題について、本質的な解決について考える。	3 後	36	2	○			○		○		
47			○	AIプログラミング基礎演習	Pythonを用い、データ処理や機械学習の基礎について演習を行う。	3 前	72	4	○	△		○		○		
48			○	ネットワーク構築演習応用	Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、ネットワークの構築やトラブルシューティングを行う。	3 後	36	2	○			○		○		
49			○	技術英語	基本的な英会話による口述筆記とリスニング力の強化。	3 後	36	2	○			○		○		
50	○			ビジネス実務	社会人にとって必要な仕事・人間関係・マナーなどのビジネス能力の基礎を学び、実務に即した技術知識を身につける。	1 後	18	1	○			○			○	
51	○			やってみなはれ演習Ⅰ	様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	1 前	36	2	○		△	○		○		
52	○			やってみなはれ演習Ⅱ	様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	1 後	36	2		○	△	○		○		
53	○			就職講座A	就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける。 内定を得るためにやるべきこと、必要なことを考える。	2 後	36	2	○			○		○		
54	○			就職講座BⅠ	就職活動をする上で、必要な準備を学習する。	2 前	36	2	○			○		○		
55	○			就職講座BⅡ	就職試験の第一次選考等で用いられるテスト（SPI・CAB・GAB）対策。	2 後	36	2	○			○		○		
56	○			やってみなはれ演習応用Ⅰ	経済産業省が提唱する就職基礎能力を、グループワーク等により向上を目指す。	2 前	36	2		○	△	○		○		
57	○			やってみなはれ演習応用Ⅱ	経済産業省が提唱する就職基礎能力を、グループワーク等により向上を目指す。	2 後	36	2		○	△	○		○		
58	○			ビジネスプロセス演習	卒業後に向けて、ビジネスの流れを理解し、自らのキャリアパスを考える時間を取る。 また、卒業研究に向けた顧客分析や、情報活用、資料制作のデザイン面など、どの職種でも活用できる能力の拡充を図る。	3 前	36	2	△	○	△	○		○		
59	○			企業人研究Ⅰ	企業人3年目程度までに求められる能力を学修対象とする。	3 前	36	2	○			○		○		
60	○			企業人研究Ⅱ	企業人に求められる仕事のメソッドを学び、コンプライアンス（倫理＆違法）を履行するための知見を学修する。	3 後	36	2	○			○		○		

(工業専門課程 ITエンジニア科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
61	○			就 職 講 座 A 応 用	社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタ ディとグループディスカッションを通して理解と自己評 価を行う。 社会の仕組みや人間の思考の基本概念か ら、社会人としてのあり方を考える。	3 前	36	2	○		△	○		○		
62	○			社会人基礎力 演習Ⅰ	社会へ出る前に、各自が「自主的」に能力を伸ばす時間 を取る。前半は企画を中心に、社会に出てから不都合の ないような学習を行う。	3 前	36	2	△	○	△	○		○		
63	○			社会人基礎力 演習Ⅱ	社会へ出る前に、各自が「自主的」に能力を伸ばす時間 を取る。後半は、セキュリティ教育を中心に、社会に出 てから不都合のないような学習を行う。	3 後	36	2	△	○	△	○		○		
合 計						63	科目	168(3,024)			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：90単位を取得し、全ての必修科目と選択必修科目を修得していること		1 学年の学期区分	前後 期
履修方法：必修科目の他に選択必修、任意選択科目によって履修する講義・演習(留意事項)		1 学期の授業期間	18 週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。